

# 福井の宝! 島田墨仙展

県立美術館で  
3月4日からいよいよ  
スタート!!

幕末から昭和初期、  
熱き侍魂をもって生き抜いた  
島田家の画人たちを紹介する  
展覧会です。



父雪谷は松平春嶽公に  
仕えた福井藩士で  
書画や武道が得意な、  
今でいうマルチ人間でした。



もともと武士なので  
武道には自信があるぞ

家では画塾を開き一時は  
千人を超す弟子がいたといえます。  
幕末の志士、橋本左内も  
少年時代に書画を習いに来ていました。



隣家の天才、橋本左内の影響で  
雪谷が息子たちに課すレベルも  
自ずとあがっていきました。



左内先生  
みたいにな  
りたい...

左内さんが  
お前たちと  
同じような  
年でかいた  
ものだよ

当時福井で  
左内を尊敬  
しない人は  
まずいなかった。

二人の兄弟は雪谷ゆずりの画才と  
熱き侍魂で人生を切り開いていきます。



父雪谷亡き後はいろいろなことがありましたが...

兄の雪湖は米国の  
海洋調査船に  
記録画家として乗船し



克明な魚類の記録  
画を作成

カリフォルニアでは日本画  
について連続で講義をし  
語りました。



日本美術について  
語りました。

一方、墨仙は「真実」に絵をやるため満28才で  
日本画の巨匠橋本雅邦に入門します。



墨仙人生の岐路え図

墨仙は精進を重ね  
文展・帝展などを中心に  
活躍し、歴史人物画の  
第一人者となっていきました。  
私たちのよく知っている  
橋本左内の肖像画は  
墨仙が描いたものです。



時折侍の血が  
騒いで人物画が  
描けなくなるときも  
あったようですが  
あつたようですが

七五歳のとき  
「山鹿素行先生」で  
日本画部門初の  
帝國芸術院賞を  
受賞しています。



君も墨仙の通に  
なれるよ。  
きつと来てね!!